

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104258
法人名	株式会社さくら会
事業所名	グループホームさくら
所在地	鹿児島市福山町958番地1 (電話) 099-278-0550
自己評価作成日	令和6年1月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①管理栄養士によりカロリー計算された食事を提供すると共に近隣住民の方々やご家族様からの差入れ品(野菜や果物)を使い、豊かな食生活のサービス提供に努めています。また、食生活面からの健康管理を実施し、個々のニーズにも対応しています。
- ②何よりも利用者様を第一と考え、皆様に安心して楽しい生活を送って頂く為、誠心誠意、心をつくした支援に努めています。
- ③施設には自家発電の設備を整備し、スプリンクラーも設置して防災、防火対策を強化しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市松元地区の市街地から約1km離れて、田畑や茶畑などの自然豊かな環境に囲まれて、小規模多機能ホーム・有料老人ホームと隣接して平成18年に設立されている。近くには小学校・商店・金融機関・団地や個人住宅等が立ち並び、居室の窓からは、四季折々の変化を毎日眺めることができ、庭に植えてある樹木や広いウッドデッキから見える東屋など、お茶会や庭の散策等を自由に楽しむことができる空間が広がっている。

利用者の平均要介護度は3.5、平均年齢は87歳で、約半数が車椅子を利用している。利用者の高齢化や要介護度の上昇に伴って重度化が進み、残存能力に対応した介護が必要とされている。管理者及び職員は、「心」という理念の基に、利用者の思いやこれまでの習慣を十分把握して、接し方や言葉遣い等を大切に支援の実践に取り組んでいる。運営推進会議では、家族の都合に合わせて開催して貴重な意見を頂き、会議の結果は全家族や職員に周知されて、サービスの向上に繋げている。

入居前の生活やこれまでの利用者を取り巻く関係、馴染みの情報の把握等に努めている。面会は予約制で、玄関ホールでパーテーション越しに15分以内で実施している。電話や手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問理美容、家族の協力の下に受診・外出・外食等の支援にも努めている。ホームの窓からは桜・梅・紫陽花等の花を眺めることができ、癒しの時間となっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームは代表者の父親の介護体験をもとに設立され、利用者や地域の方々への配慮を考慮し、理念は「心」を掲げている。毎朝のミーティング時に理念の「心」を基に、思いやりの心と気持ちで接する事を合言葉にし、実践に繋げている。	開設当初からの理念「心」を各ユニットの入口とホールに掲示し、毎月のミーティングで振り返り、利用者への接し方や言葉遣い等を大切にしたい支援に努めている。各ユニット主任は書面で職員毎の評価を実施し、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は地域の夏祭りでの子供神輿の立ち寄りなど、日常的な交流ができるように取り組んでいるが、コロナ感染拡大に伴い、密な交流が実施できていない。	職員が個人的に自治会に加入し、回覧板等で地域の情報は把握している。コロナ禍以降、地域活動への参加は難しいが、地域の清掃活動への参加、農産物の差し入れ、2か月毎の訪問理美容等の交流に努めている。外国人技能実習生の受入れを行い、地域住民の入居に伴う相談を受けて入居となるケースもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	随時、地域の方々からの認知症の相談を受けている。運営推進会議で「認知症」について理解を深めて頂き、地域の高齢者の方々の暮らしに役立つよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況、ホームの運営状況が報告され、それに対しての意見等、参加者全員で話し合い、ホーム運営に活かしている。	会議は、家族、民生委員、市担当者等が出席して2か月に1回開催している。利用状況・行事・近隣の情報等が報告され、ホームの現況についての意見等が多く寄せられている。会議の結果は職員会議を通じて職員に周知されており、感染症やマイナンバーカードに関することについて協議し、改善を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に連携を取っており、情報交換を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。事故報告や感染症等が発生した場合には速やかに第一報を報告し、報告書を提出している。	市役所支所へ出向くことが多く、介護保険の更新や申請、運営やケアに係る相談、運営推進会議への出席等を通して指導・助言等を頂き協力体制を築いている。生活保護受給者や成年後見制度利用者に関する連携にも努め、市主催の研修会等にも出席して意見・情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態に応じた対策を検討し、身体拘束に繋がらないケアに取り組んでいる。日々のケアの中でも言葉使いや態度等拘束に繋がるような場面があればその場で注意喚起を行っている。	「身体拘束ゼロ対策等行動制限防止に係る規程」を整備し、身体拘束や高齢者虐待に関する研修を実施して、職員の認識を深めている。適正化のための身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催し、ヒヤリハット事例を基に事例検討・工夫案等について検討し、ミーティング等を通して職員間で共有している。人格の尊重と健康に生きる権利を重視した「利用者様の権利宣言」を掲げ、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期のミーティングで高齢者虐待防止法はもとより認知症及び接遇に対する研修を行い、理解を深めている。利用者の状態や言動等、利用者の観察に努め、職員間で情報共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来るだけ研修に参加し、定期ミーティングにて勉強会を実施している。その他研修等に管理者等が参加し、ミーティング時に職員との情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約については急変に基づいたものが主となる為、医療機関と連携し、密な情報交換をすることで家族との検討を進め、理解に繋げている。契約時には介護保険の説明や大体の月額等も説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に声掛けを実施し、ホーム内の意見箱設置で家族の意見や要望の出しやすい環境を作っている。家族から得られた意見はミーティングで具体的な取組みを話し合いサービスに反映させている。ご家族にはホーム便りや電話で利用者の状況報告を行い、密な連携に努めている。	利用者の約3分の1が自分の意思をうまく伝えられず、日頃の会話・表情・仕草等から思いを汲み取るように努めている。家族からは面会・電話・園便り等を通して気軽に意見を述べてもらえる雰囲気づくりに努めており、差し入れを頂くこともある。病院や他施設からの入居が多く、関係機関からの情報をもらい、職員間で協議しながらサービスへの反映を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティングで職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。利用者の笑顔の写真掲示や寸劇は利用者の楽しみであり、職員のアイデアが活かされた場面でもある。管理者は資格取得にも積極的であり、ホームの決定事項も報告し、職員の育成も務めている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを密に図って信頼関係を構築し、ミーティング等では意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。随時面談を実施し、希望休や有給休暇の取得、昼食時の休憩時間の確保、資格取得を勧めたり取得のためのバックアップ等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている様々な状況や変化を把握し、職員が疲れやストレスを溜めこまないように配慮し、職員が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。希望休みや勤務変更についても円滑に行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の各段階に応じ、必要な研修については参加を勧め、その内容について定期ミーティングにて職員全員が共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流を持ち、運営状況についての相談・連絡を行うことにより、サービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に対する不安な思いを理解し、傾聴の姿勢を大切にし、本人との関係作りに努めている。また、ご家族にも情報提供の協力をお願いしている。食事嗜好調査を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況や何に困っているのか不安や要望等において傾聴・共感しながら相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況、生活状況を把握し、必要があれば医療機関等、その他の機関との調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等、職員の業務と捉えず、利用者の状況に合わせて出来る事を一緒に行うことで暮らしを共にする関係作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活や変化を出来るだけ細かく報告し、ご家族の思いや意見を取り入れ、本人と一緒に支えていく為の協力関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症の蔓延につき馴染みの人との交流は窓越し面会や電話での通話を実施し、関係が途切れないように支援している。	面会は予約制で、玄関ホールにパーテーション越しに15分以内、2人までとしている。電話や手紙の取り次ぎ、2か月毎の訪問理美容、家族の協力の下に受診・外出・外食等の支援にも努めている。ホームの窓からは桜・梅・紫陽花等の花を眺めることができ、癒しの時間となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の心身状況や感情でもお互いの対応の仕方が変化する可能性がある為、職員は常に注意深く観察し、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院加療となった方へは、定期的に家族と連絡を取り合い、訪問やモニタリングを実施している。 また、相談内容に応じて紹介や調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動は記録に残し、記録を基に申し送り時に職員間で情報共有し、利用者本位の支援に努めている。	本人・家族の思いや意向は日頃のケアや面会等で把握に努め、職員間の情報の共有を図って、その人らしく暮らし続けられるように支援している。高齢化・重度化により出来ることが少なくなり、音楽やテレビの視聴・ぬり絵・折り紙等を楽しみ、個別支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメント時に本人、家族はもとより施設・医療機関の相談員や居宅事業所のケアマネジャーより情報を収集し、職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況の中から利用者の身体状況や今出来ている事や支援が必要な事、また、変化の有無の把握に努め、その時の状態に応じて見守りや介助を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向や利用者の身体状況や症状等について定期ミーティングや日々の申し送り時に職員間で意見交換を行っている。また、医療関係者からも意見を頂きながら介護計画の見直し・作成を行っている。	利用者や家族の思いや意向を把握し、主治医・歯科医師・歯科衛生士からは訪問診療時や電話等で意見等を頂き、6か月毎に介護計画を作成している。予測されるリスクを「個別危険予知活動記録」で数値換算し、モニタリングは毎月実施して、利用者の状況変化に応じて見直しや修正を行いながら、実状に即した介護計画となるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の中で状態に変化があれば、その都度話し合い、計画に反映している。急を要するような場合には、適宜、個人に合ったケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々変化する状況に応じて、職員全員がその変化を共有し、その時々で最善のケアを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は利用者のプライバシーに配慮しながら、ボランティアや学生の慰問を受け入れ、年間行事では各関係者へ協力を依頼しているが、コロナウイルス感染症の蔓延に伴い積極的な取り組みが出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診をしているが、ホームの協力医療機関の往診もある。緊急医療機関や専門医療機関との連携も取り、利用者や家族の安心が得られ、適切な医療が受けられるように支援している。職員が同行したり、電話での相談等、日頃より適切な医療に繋げている。	利用者及び家族が希望する医療機関での受診を支援しており、利用者全員が2協力医療機関を主治医とし、月2回の訪問診療、週1回の訪問歯科診療と居宅療養管理指導を受けている。皮膚科等の専門診療科受診は職員と家族で協力し合って受診を支援し、透析治療を受けている利用者は病院の送迎を利用している。ホームに勤務している2人の看護師により健康管理が行われ、夜間は主治医との24時間連携体制が構築され、適切な医療支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、必要に応じて医師等に電話連絡を取り、指導をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は日頃の状態を情報提供書を基に報告している。入院中は医療機関と連携を図りながら退院の時期や退院後の留意点等を情報収集し、退院後の円滑な支援が行えるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族へ重度化した場合や終末期のあり方について説明し、了承を得ている。	ホームでの看取りは行われていない。「重度化に関する指針」を整備し、医療機関及び急変時の連絡体制、夜間の対処方法等について記載している。急変時における延命処置については、重要事項説明書に記載して説明しており、ホームで可能な限り希望に沿ったケアの体制で取り組んでいるが、重度化した時点で医療機関を選択して最期を迎えることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにて、急変時での応急手当に関する勉強会を実施しており、日常的にも看護師により他職員に指導している。その他消防を招いての応急手当講座を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと隣接した小規模多機能ホームと合同の災害訓練を年2回実施している。避難経路の確認、通報、消火訓練など緊急時の意識を高める訓練を行っている。自家発電やスプリンクラーの整備や食料備蓄も行い、ホームを地域住民の避難場所として開放する準備もしている。	B C P 計画を作成し、夜間想定での災害訓練を消防署の立ち会い1回を含めて年2回実施している。自動通報装置は職員にも繋がっており、消防署職員による講話や消火設備業者による消火器等の点検も実施して、実践的な防災対策に取り組んでいる。備蓄は米・飲料水・レトルト食品・缶詰等を準備し、カセットコンロ・ラジオ・懐中電灯等も用意して、災害の発生時に備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者と目線を合わせての会話を指導しており、利用者に対して敬意を持って話しかけるように努めている。記録物等は他者の目につにくい場所に保管し、居室への訪室にも細心の注意を払っている。	日常の声かけや言葉遣いに配慮し、利用者の尊厳を大切にしたい支援に努めている。個人情報保護マニュアルを作成し、プライバシー保護と共に研修を実施して理解を深めている。居室入口には氏名を表記せず、さん付けで呼んでいる。居室入口は閉める、入浴や排泄介助時の羞恥心への配慮、個人記録物は目につかない場所に保管する等の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	本人が安心できる雰囲気作りを目指し、利用者が自分の思いや希望を自然に表現出来るような信頼関係作りに努めている。特に意思の疎通が困難な方については表情の変化に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴等、大まかなスケジュールはあるが、希望によっては時間をずらす等、本人のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望者には2ヶ月毎での訪問散髪を実施し、服装、洗顔、整髪、爪切りなどの身だしなみには常に気を配るように努めている。好みの化粧品等を持参の方もいるので、使用を勧めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、盛り付けや彩り等を工夫し、目でも楽しめるように配慮している。	食事は炊飯のみ行って、行事食を含む全てを外部業者に委託している。利用者の嚥下状態等に応じて刻み・ミキサー等の食事形態に配慮し、クリスマス会や手作りおやつなど工夫して取り組んでいる。好天時には東屋でお茶を飲んだり、家族との外食を楽しむこともある。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況や嚥下状態に応じて食事形態の変更や介助を行っている。食事、水分摂取の把握を行い、声かけ促しを行っている。食器に変化をもち、盛り付けに気配りし、目でも楽しめるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師との連携や毎食後の口腔ケア、就寝時は義歯をはずして洗浄、消毒を行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を参考に利用者それぞれの排泄状況を把握した上で、時間誘導や声かけを行うなど自立に向けた支援を行っている。拒否のある利用者にも声かけを工夫しながら、又、プライバシーにも配慮しながら、さりげない誘導を行っている。	利用者毎の希望や状況等を把握し、排泄チェック表も活用して、日中は声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。トイレ付きの居室に入居している利用者はほぼ自立しており、リハビリパンツやポータブルトイレ等の利用もある。便秘の予防に野菜の多い食事メニュー、牛乳や起床時の水の摂取、レクリエーション時の体操等に配慮し、主治医と連携して改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	余暇活動を通じて適度な運動や水分補給を促す等、配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の意向や心身状況に合わせて入浴時間や入浴方法、必要な介助を行っている。	週3回、午前中に個浴での入浴を支援しているが、利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴等でも対応している。湯船に浸かる利用者とシャワー浴の利用者が半数ずつであり、入浴後は保湿剤を塗布したり水分補給を行っている。入浴をためらう利用者には声かけやタイミング等を工夫して無理強いしないように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状態に応じ、安静を援助したり、照明や寝具を調整して気持ち良く眠る事が出来るように支援している。また、余暇活動や運動で適度に体を動かし、快眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の増減があれば必ず朝のミーティング等で申し送り、職員は服薬状況を把握している。施設毎に個人の薬状を必ず置いている。また薬管理表にて配薬間違い防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る活動（洗濯物たたみや新聞折り等）をそれぞれの役割と捉え、充実感を感じて頂ける取り組みを行っている。嗜好品も個々に応じて提供し、楽しみや満足感に繋がっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況により車椅子や歩行介助にて園内散歩や園庭での日光浴等、自由に散策できる環境にある。桜の季節には東屋で花見を楽しんで頂くなど五感の刺激や気分転換を図っている。	コロナ禍以降、外出の機会が減少したが、園内散歩・病院受診・東屋でのお茶会や季節の花見等、外の空気に触れることができるような支援に努めている。ホームで過ごす時間が長くなり、作品作りの時間が増えたり、テレビ視聴・ぬり絵・折り紙・ちぎり絵・ことわざ・音読など、工夫してリフレッシュを図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症に因り自己管理が難しい為、預かり金としてホームで管理している。個人ごとに出納帳を作成し、家族にも確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自発的な電話や手紙のやり取りはあまりみられないが、手紙等については家族の承諾の下、職員が代読する場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は適切に調整している。季節を感じられるような掲示物や花を飾ったりカーテンを開けて周囲の景色を眺めて頂く等、四季を感じる工夫をしている。天気や気温に応じて照明や冷暖房の調整を行っている。	明るく広いホールには職員が持参した季節の生花・行事の写真・利用者の塗り絵等が飾られ、日めくりカレンダー・時計等も設置され、採光や空調にも配慮されている。ホームの周囲には田畑が広がり、窓からは四季折々の田園風景を眺めることができる。ウッドデッキから見える東屋のある広い庭には、色々な樹木や花壇があり、散策等を楽しむことができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、リビングにはソファを置き、思い思いに過ごして頂いている。和室となっている談話室には、掘りゴタツやソファがあり、一人ひとりが望む場所で過ごせる。また、テラスから外へ出る事もできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や時計、写真、アルバム等を持ち込んで頂き、心地よい環境で過ごして頂いている。本人のペースで片付けて頂き、危険がある場合以外はなるべく手を加えないようにしている。	居室は腰高窓で明るく十分な広さが確保されている。電動ベッド、タンス、ソファ、洗面台、エアコンが備えられ、トイレ付きの居室が6室ある。利用者は寝具やテレビ、家族写真、ラジオ、仏壇、位牌等、馴染みのものを自由に持ち込み、落ち着いて過ごせる環境となっている。居室の入口には氏名の表記はせずに、目印で自分の居室がわかるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な箇所には手摺が設置しており、声掛けや手引きでの自力歩行を促している。また施設内は歩行や移動、活動の妨げにならないよう、障害物を除いている。トイレ入口には大きく「トイレ」と分かりやすく表示している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない